

チューリップの育て方

チューリップ…ユリ科 チューリップ属 耐寒性球根
原産地: 中央アジア、北アフリカ、地中海東部沿岸

■年間作業カレンダー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育サイクル			生育・開花									
作業				球根掘り上げ				植え付け(花壇植え)				

■チューリップの歴史

春の花の代表といってもよいチューリップ。原産地は中央アジア、トルコ、北アフリカとかなり広い範囲にわたっており、100ないし150の野生種が知られています。チューリップがヨーロッパへ導入されたのは、16世紀に入ってから。その頃トルコではすでにかなり多数の品種に分化されていたといわれ、園芸種としてのチューリップの歴史はかなり古いのです。



植え付け

■肥料を混ぜます

元肥として、化成肥料を土に混ぜておきます。(1㎡あたり100g程度)。酸性土壌には、苦土石灰や草木灰を混ぜます。

■球根を植えます

球根の間隔は球根1~3個分、深さは球根の高さの3倍程度空けるのが適当です。密植ぎみのほうが、豪華でチューリップの美しさを発揮できます。

■水やり

チューリップは葉が大きいので、意外に水分を要求し、発芽後の土の乾燥もおこりやすくなります。冬でも水やりはしましょう。ただし、過湿にならないように。



花後の管理 (大きな球根を収穫するために)

開花を楽しんだ後は、葉を全て残して花の下で茎を折り、栽培をつづけます。5~6月、葉が黄色くなってきたら掘り上げます。掘り上げた球根はベンレート1000倍液などで消毒を行い、涼しいところで秋まで保存します。

植えたときより小さくなった球根が何個かできていることがありますが、小さな球根では、翌年立派に咲いてくれません。それでも、小さな球根もなんとか咲くことがありますよ。球根の中を見ればわかります。

■見分け方(右図)

球根をいくつか選んで切断し、内部の花芽の有無を調べましょう。花芽のできていた球根と同程度の大きさの球根であれば、まず咲くと考えてよいでしょう。

球根を半分に切ってみると、大きな球根には中に花芽がありますが、小さなものにはないことがわかります。



病害虫

■病気

1. モザイク病 発生時期: 4~10月の生育期間中

「症状」単色の花だったのが縞花になってしまった。

2. 白絹病 発生時期: 4~10月の生育期間中

「症状」株の地際部やそのまわりの地表面に、白い糸のような菌糸が網の目のように張りめぐらされ、株は立ち枯れ状になります。

3. 軟腐病 発生時期: 5~9月

「症状」地際部や地下部は腐敗して柔らかく溶けたようになり、いやなにおいがするようになります。

■害虫

1. ネダニ 発生時期: 1年中

2. アブラムシ 発生時期: 3~11月(冬は卵)

